

シンポジウム 4 (技術部会企画) SY4-2 スポーツ傷害専用の第 2 種装置を新規導入する 際に発生した問題点とトラブルシューティング

梅木秀一^{1,2)} 山口信彦^{1,3)} 嶋 俊郎^{1,2)} 平畑佑輔^{1,2)}
塚田圭輔^{1,2)} 笹原 潤^{1,2)} 安井洋一^{1,2)} 増田裕也^{2,4)}
宮本 亘^{1,2)} 中川 匠^{1,2)}

- | |
|---------------------|
| 1) 帝京大学スポーツ医科学クリニック |
| 2) 帝京大学スポーツ医科学センター |
| 3) 医療法人徳洲会山内病院 |
| 4) ライオンズ整形外科クリニック |

2018 年 7 月、帝京大学スポーツ医科学センター棟内に帝京大学スポーツ医科学クリニックを開院し、同年 9 月より高気圧酸素治療を開始した。当院の高気圧酸素治療装置はパロテックハニュウダ社製、最大定員 8 名の第 2 種装置である。当施設はスポーツ傷害専用として運用しており、現在は帝京大学関連のアスリートのみならず、外部のプロ、アマチュアのアスリートを問わず治療を行っている。

しかしながら、装置を導入および運用する際に様々な問題があった。患者はもちろん、医療従事者においても安全に治療を行う事は責務である。導入後、安全のためにあえて約 10 ヶ月間の長期おける稼働停止を実施し、ソフトウェアおよびハードウェアの修正を行った。また、ガイドラインを遵守する体制も整えた。当院が実際に行ったその取り組みを今回報告する。

そして、今後においても、より安全に治療を実施しながら、様々なスポーツおよび高気圧酸素治療の更なる発展に貢献していきたいと考える。